

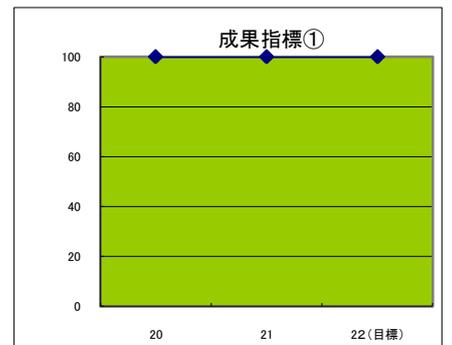
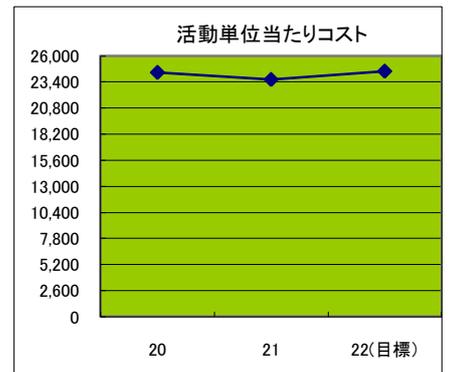
平成 22 年度 事務事業評価シート(平成 21 年度実施事業)

整理番号

保保25

事務事業名		乳幼児医療助成事業		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画		2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち		款	3	民生費	
まちづくりの目標(章)	施策(節)				1	1	社会福祉費	
施策の方向	1				保健・医療	目	12	乳幼児医療費
関連する計画等		(5)	医療保険制度の充実		事業	1	乳幼児医療費助成費	
作成部署				保険福祉部保健健康室保険年金課				
対象(誰を・何を)				連絡先		072-958-1111	内線 1330	
乳幼児及びその保護者								
意図(どういう状態にしたいのか)								
保護者の精神的並びに経済的な負担を軽減し、乳幼児の疾病の際の受診を促し、健全な育成と福祉の向上を図る。								
事業の内容								
羽曳野市の住民基本台帳等に記載されている0歳~6歳まで(就学前まで)の乳幼児について、入・通院の医療費の健康保険の自己負担額から一部自己負担額を控除した額及び入院時の食事療養費を助成する。								
根拠法令等		羽曳野市乳幼児の医療費の助成に関する条例						
事業開始時期		<input type="checkbox"/> 昭和 5 年開始 <input type="checkbox"/> 明確にはわからない <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 市制施行(昭和34年)以前より行っている				終了年度	平成 年度	
事業開始時からの状況変化		子どもとその保護者を取り巻く精神的・経済的な環境が日々悪化し、その結果、社会全体での少子化を招くこととなっている。						
市民や議会の要望		対象年齢の引き上げについて要望がある。						
実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金・助成金 <input type="checkbox"/> その他( )						
委託先		<input type="checkbox"/> 市外郭団体委託 名称( ) <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> その他		委託内容				

区分		20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込み)	
事業費【1】 (千円)		160,829	147,610	169,165	
人件費【2】 (千円)		7,950	7,950	7,950	
職員数	正規職員	1.00 人	1.00 人	1.00 人	
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	臨時職員	0.25 人	0.25 人	0.25 人	
	超過勤務(参考) (時間)	160.00 時間	43.00 時間	50.00 時間	
総事業費(【1】+【2】)【A】 (千円)		168,779	155,560	177,115	
財源内訳	国費 (千円)				
	府費 (千円)	52,845	44,726	50,416	
	市債 (千円)				
	その他(手数料・使用料等) (千円)			10	
一般財源 (千円)		115,934	110,834	126,689	
活動指標(事業の活動実績)【B】		単位	20年度	21年度	22年度(目標)
① 医療証交付数		人	6,925	6,573	7,230
② 助成件数		件	83,948	80,602	88,662
③					
活動単位当たりコスト(【A】/【B】①)			24,372 円	23,667 円	24,497 円
市民1人当たりコスト(【A】/人口)			1,410 円	1,308 円	1,490 円



成果指標	指標名	単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
				目標	実績	目標	実績	目標	実績
① (式)	必要な対象者の割合	%	医療証を交付すべき対象者	100	100	100	100	100	100
						100.0%			
	必要な助成件数の割合	%	必要な助成件数の割合	100	100	100	100	100	100
						100.0%			

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある		有

視点	分析のためのチェック点	評価			分析・評価の説明
		はい	いいえ	該当なし	
妥当性	市民ニーズが高い	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	南河内地域において、入院の対象年齢を小学生までに引き上げている市町村が見られるが、大阪府内においては所得制限を設けていないこともあり、中程度のレベルで子育て支援の充実の観点から一定の水準に達していると思われる。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	社会情勢の変化に対応している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	国・府の事業と重複していない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	緊急性が認められる	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	大阪府内の市町村で統一されている現在の医療証による現物給付は、効率よく実施され、制度についても府内の医療機関において定着している。また、医療証による現物給付が適用されない府外受診の現金給付も特に問題はなく取り扱っている。
	受益者負担の割合は適当である	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	人員を削減する余地がない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	事業費を削減する余地がない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	簡略化できる方法や手段がない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	市の他事業と重複していない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	子育ての観点から不可欠な施策である。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	成果を向上させる余地がない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	市民の視点にたってサービスが提供されている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	医療機関での医療証の提示、健康保険証の変更に伴う変更の届出並びに、制度の区分のための所得証明等の提出など、運営上の協力はおおむね得られている。
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
達成度	成果指標の目標値は適正である	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	基準に基づき適正に助成を行っている。
	成果指標の実績値は目標値以上である	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	成果指標は前年度より向上している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

担当部局評価	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡大・充実 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 方法改善 <input type="checkbox"/> 民営化・民間委託 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 完了					
	評価の理由	南河内地域において、入院の対象年齢を小学生までに引き上げている市町村が見られるが、羽曳野市は、所得制限を設けていないこともあり、大阪府内で中程度のレベルであり、子育て支援の充実の観点から一定の水準に達していると思われる。					
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	少子化対策及び子育て支援の一環として、乳幼児の医療費等については、国負担による公費助成制度を創設されるべきであり、従前より国に対して要望しています。また、大阪府に対しても通院対象年齢の拡大と所得制限の撤廃を要望しており、現在の対象年齢を上げるためには、国・府に対して更なる要望していく予定です。					

行本部評価	総合評価	評価理由・意見
	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大・充実 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 方法改善 <input checked="" type="checkbox"/> 民営化・民間委託 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止 <input checked="" type="checkbox"/> 完了	